

農業食料組織経営講習会 開催要領

(平成30年度 第82回「京都大学 食と農のマネジメント・セミナー」第3クラス)

アグリビジネス・農業食料関連組織の社会的責任（CSR）事業の創り方



主催 京都大学大学院農学研究科 生物資源経済学専攻
後援 農林水産省
一般社団法人 農業開発研修センター
日本政策金融公庫 京都支店
協賛 株式会社昭和堂
キョーワズ珈琲株式会社
株式会社きたやま南山

1. 趣旨

本講習会の目的は、社会的責任(CSR)や社会貢献(社会的課題の解決)の事業化や、それら事業の改善を検討するアグリビジネス(食品流通業・製造業・小売業や企業化した農業経営を含む農業食料関連企業)や農業食料関連組織(生協、農協、NPOなど)の企画担当者(および行政やコンサルタント会社などの指導・助言者)が、1日目の講義でそれらの事業創設・改善のために重視すべきことを学んだ上で、2日目のSWOT分析(組織をとりまく外部環境に潜む機会と脅威を把握した上で、その組織の内部環境が持つ強みと弱みを評価し、外部環境の機会と内部資源の強みが適合する実践性の高い戦略を導くもの) / ケースメソッドに基づく演習により、同事業の計画書策定を経験することで、私的にも社会的にも意義深い高度なCSRの策定力を身に付けることです。

日本において大手企業がこぞってCSR(企業の社会的責任)に取り組みはじめ、「CSRブーム」と呼ばれた時代は過ぎ去り、今や大手企業の持続的成長に不可欠な、経営環境への働きかけや社会発展への寄与として、CSRが位置付けられるようになっております。中小企業においては、CSRとの位置付けをしないことが多いですが、経営者の価値観や経営理念から必然的に導かれる地域社会への貢献活動が目立つようになっております。

その内容についても、ブーム時に「グリーンウォッシュ」(本質的な努力をとまわず、表面的な取り組みのみで「環境にやさしい」などのイメージを得ようとする戦略)や「CSR戦略」(中核的事業については従来通りで社会・環境面の課題を残したまま、しかし付随の社会・環境貢献を積極的に広告し、企業のイメージを引き上げる戦略)と批判されたものから、欧州委員会の定義のように、「それによって企業が自発的に、社会・環境面の配慮を事業運営とステークホルダーとの相互作用の中に統合すること」に近づいてきました。

そもそも企業の事業は、人間の社会生活に必要な商品・サービスの提供であり、本来的に社会的・公共的性格が高いです。その事業の社会性の高さから得られる利益を、株主の私的なものにするのが企業経営ですが、CSRは利益を株主以外の幅広いステークホルダー(企業の存続や成功に不可欠な従業員、原

料調達や製品販売の顧客、地域社会など)に配当すること、そして中核的事業の社会的性格をより高めることです。それらを促すのが、高い社会的、公共的役割を重視する経営理念や企業文化です。

以上のような解題からはじまる本講座は、まず CSR の先進企業として名高いオムロンから、企業理念に基づく経営構造・企業文化の確立や、社員全員が常に「よりよい社会づくり」への寄与を探し求め、同社の経営資源の下で事業化していくプロセスなどを学びます。次にオムロン同様、「経営理念から導かれた、事業を通じた CSR」の先進事例といえる、京都生協の地産地消や産地支援の取り組みから、消費者のための生活協同組合が、収益を危ぶむ声がありながら産地支援を開始し、しかし事業化のために収益へと絡めていく工夫などを学びます。

さて、アグリビジネスにとっての最大の倫理的課題は、農業生産の持続性が危ぶまれるほどの低価格での原料調達(買い叩き)を回避することである。「人に、自然に、おいしさに誠実でありたい」という経営理念に導かれ、キリマンジャロ・フェアトレードコーヒーの焙煎・販売に努めるキョーワズ珈琲は、香味の高さはもちろん、生産者支援・森林保全できることを高品質である要因、すなわち差別化の要因と捉え、生産者から高価格で買い上げたコーヒーを売り切ることができております。また、「私たちは環境にやさしい、循環型の農畜産業を応援し、豊かな食文化を支えます」という社会性の高い経営理念を掲げるきたやま南山においては、環境・動物福祉に配慮した牛の育て方を品質・差別化の要因とすることで、高めの販売や生産者からの高めの調達、循環型の農畜産業の応援が可能になっております。この2つのアグリビジネスの倫理的調達の詳細を学ぶのが、1日目の講演の締めになります。

以上の講義を踏まえて、2日目の演習においては、受講者自らの組織(あるいは同グループの別の受講者の組織)をケースとした、グループディスカッションによる SWOT 分析を行い、「経営理念から導かれた、事業を通じた CSR」の計画書(プロジェクト概要、実施のプロセスや体制、リスクやその対策など)を作成します。このケースメソッドに基づく SWOT 分析の成果物である計画書について、その後、グループごとにプレゼンテーションを行い、「アグリビジネスの CSR のあり方」や「具体性・実現可能性」などを評価基準として合格水準に達していれば、修了証書を発行します。

なお1日目の講義には、本学の食料・環境経済学科「食農倫理論」の受講生も参加します。将来を担う学生たちとの交流、情報交換の場としての位置付けもしたいです。また講習会終了後も、受講者と講師陣の間で情報交換できるよう、ネットワーク構築に努めます。

2. 期日・場所 平成30年11月23日(金・祝) 10時50分～17時50分
11月24日(土) 9時～16時15分
京都大学大学院農学研究科大会議室

3. 研修対象 アグリビジネス(食品流通業・製造業・小売業や企業化した農業経営を含む農業食料関連企業)や農業食料関連組織(生協、農協、NPOなど)のCSR/社会貢献事業の企画担当者(及び行政やコンサルタント会社などの指導・助言者)、CSR やソーシャルビジネスに興味を持つ研究者、学生など

4. 受講定員・料金 講義（1日目）のみ 70名 3,000円

講義+演習（両日） 30名 5,000円

*受講料は、申し込み後、受講者決定通知を送付しますので、通知書を受け取り後指定の銀行に振り込んでください。一度納付された受講料は、欠席の場合など理由を問わず返還することができませんので、ご注意ください。

5. 申込方法

a) 申込期間 平成30年10月1日（月）～平成30年11月13日（火）まで
（定員になり次第〆切ります）

b) 申込手続き 別紙申込書に必要事項を記入し、返信用封筒（長3規格、切手82円貼付、返信先の住所・氏名記入）を同封のうえ申し込んでください。

電話での申込は受け付けいたしません。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻 公開講座 係

電話 075-753-6200

c) 申込の受理 受講者決定通知及び講習会案内を発送します。

d) 受講料納入方法 平成30年11月19日（月）までに銀行振込

振込先 三井住友銀行京都支店（銀行コード0009 店番号496）

口座名義 国立大学法人京都大学

口座 普通預金

口座番号 8089363

*振込手数料は自己負担です。備考欄には公開講座受講料と記入してください。

*京大の領収書は発行しません。銀行振込書が領収書に変わるものですから大切に保管してください。

*振込み時の領収書（写）を、当方に郵送かFAX(075-753-6191)にて送付してください。

6. その他

講習会についてのお問い合わせは上記「公開講座係」宛にお願いします。

申込用紙は京都大学ホームページからもダウンロードできます。<http://www.kyoto-u.ac.jp>

平成30年度（第82回）農業食料組織経営講習会の講習内容と講師

■ 11月23日（金・祝） ■ 講義 60分、質疑応答 10分

- 10:50～12:00 開講の挨拶と解題—アグリビジネスのCSRのあり方—
京都大学・農業食料組織経営学分野教授 辻村英之
—昼食—
- 13:00～14:10 オムロンの企業理念経営と事業を通じたCSR
オムロン・グローバル人財総務本部企画室長 黒川興紀
- 14:10～15:20 協同組合原則と京都生協の地産地消事業・産地支援
京都生協・地産地消推進担当 福永晋介
—休憩—
- 15:30～16:40 キョーワズ珈琲の経営理念とフェアトレード
キョーワズ珈琲・代表取締役社長 辻隆夫
- 16:40～17:50 きたやま南山の経営理念「5つの約束」に基づく取り組み
きたやま南山・代表取締役 楠本貞愛
—受講者の交流会—（未定）

■ 11月24日（土） ■ 演習

—SWOT分析／ケースメソッドに基づくCSR事業の策定—

- 9:00～9:40 SWOT分析の手順—ルカニ村・フェアトレード・プロジェクトをケースとして—
京都大学・農業食料組織経営学分野教授 辻村英之
- 9:40～12:00 自らの組織を事例としたSWOT分析（グループディスカッション）
—昼食—
- 13:00～14:00 SWOT分析のまとめ（発表用資料の作成）
- 14:00～16:00 分析結果の発表と質疑応答
- 16:00～16:15 修了式